



学校だより

墨田区立第三吾嬬小学校
校長 川中子登志雄
令和8年2月16日
臨時号



子供が「主語」になる学校へ 改革3年目

保護者アンケート回答率75.9% 満足度75.1% 2年連続のダウン

学校教育改革に着手して3年目の令和7年度の各種学校評価アンケートの集計・分析が終了しました。暮れのお忙しい中、「自分の子供の通っている学校を良くする」ための保護者アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。今年度は、保護者アンケートの回答率が75.9%と、昨年度から6.6%の減となりました。あわせて、右の表のとおり、本校で学校への満足度の指標としている「自分の子供を三吾小に入学させて良かった」の項目の肯定的回答は75.1%という結果で、改革開始の年から16.8%の減という結果になりました。しかし、全体の75%、4分の3の保護者の皆様が支持してくださっているということは、この大きな改革を進める中、大変心強く思います。

満足度指標「自分の子供を三吾小に入学させて良かった」

年度	肯定的回答		否定的回答		判断できない	回答率
	良くあてはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない		
R7	75.1		14		10.9	75.9
	49.2	25.9	8.1	5.9		
R6	84.9		5.7		9.6	82.5
	59.3	25.6	3.7	2		
R5	91.9		2.4		5.8	92.3
	64.6	27.3	1.3	1		

数値は%

令和7年度 学校評価 保護者アンケート集計結果[令和7年12月実施]

令和8年1月

得意支援部

回答率(家庭数75.9%) (昨年度82.5%)

※以下は引き続き回答のアンケート1領域。その他は別添参照	項目名	今年度	昨年度	増減	満足度		回答率			
					今年度	昨年度	今年度	昨年度		
1	学校は、積極的に教育目標を達成するための教育活動を推進している。	36.1	36.5	72.6	82.8	-10.2	7.5	6.2	13.7	13.7
2	学校は、児童の主体性を育成するために、全教育活動を通して改善に取り組んでいる。	36.1	38.3	74.4	81.2	-6.8	10.0	4.4	14.4	11.2
3	学校は、基本的人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に、差別やいじめの防止に取り組んでいる。	27.4	28.4	55.8	57.6	-1.8	10.6	5.3	15.9	28.3
4	学校は、個々の児童に応じた支援に取り組んでいる。(主に、不登校傾向・集団生活になじまない児童等)	25.5	29.9	55.4	64.6	-9.2	4.4	5.3	9.7	34.9
5	学校は、児童の主体的・対話的な学習を促進する手立てを講じている。	30.5	31.8	62.3	70.3	-8.0	8.4	10.9	19.3	18.4
6	自分の子供は、学習に向かう姿勢が主体的になってきている。(自ら進んで学習に取り組もうとしている。)	14.7	27.1	41.8	45.0	-3.2	28.7	26.1	54.8	3.4
7	学校は、子供が学校で成長した内容を伝えている。	24.9	38.3	63.2	70.0	-6.8	17.8	9.7	27.5	9.3
8	面談やポートフォリオ(学習成果物)等を通して、子供の成長した様子や課題が伝わった。	25.9	38.3	64.2	-	-	19.0	10.9	29.9	5.9
9	学校は、家庭学習を推進する手立てを適切に実施している。	13.7	24.7	38.4	45.0	-6.6	23.0	24.3	47.3	14.3
10	自分の子供は、自学(家庭学習)に取り組んでいる。	15.9	28.0	43.9	48.9	-5.0	27.4	27.1	54.5	1.6
11	学校は、アンケート、校長「語りサロン」などにより、積極的に保護者の意見を取り入れ、学校の経営改善に取り組んでいる。	34.3	25.6	59.9	71.1	-11.2	5.9	6.5	12.4	27.7
12	学校は、学校公開、学校だより、ホームページ、メール、校長室動画通信、保護者会、個人面談などにより、積極的に教育活動や内容の情報発信に努めている。	62.0	26.8	88.8	93.3	-4.5	3.4	3.4	6.8	4.4
13	上記の取組により、学校の取組の様子を把握できている。	30.9	48.9	79.8	84.0	-4.2	9.7	5.0	14.6	5.6
14	自分の子供を第三吾嬬小学校に入学させてよかった。	49.2	25.9	75.1	84.8	-9.7	8.1	5.9	14.0	10.9

児童のアンケートからは、全般的におおむね良好な結果が得られました。現在集中的に進めている取組に関する項目（質問1, 3, 4, 5, 9, 10, 12, 14）についても、子供たちはよく頑張っていることがうかがえます。

2月10日に行われた墨田区教育委員会研究協力校・研究発表会では、学級閉鎖のクラスを除く全学級の学習時間の様子を公開したのち、研究発表・第1部として、児童の実行委員による発表と質疑応答を行いました。当日、墨田区だけでなく、日本全国からご参加くださったたくさんの方々に、子供たちが第三吾嬬小学校で確かな力をつけ、伸ばしてきたことを見ていただくことができました。（こちらの様子はホームページ「[R8.02.10 研究発表会・特設サイト](#)」にてご覧いただけます。ぜひご覧ください。）

令和7年度学校評価・児童アンケート結果

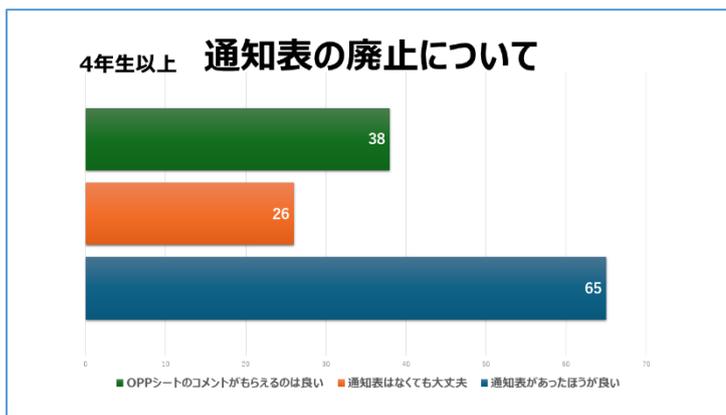
		肯定的回答		否定的回答	
		前期	後期	前期	後期
1	チャイムや号令がなくても、時間を守り、自分たちで話し合って活動を始めたり終えたりできましたか？	88.0	87.1	12.0	12.9
		87.5		12.5	
2	開校150周年記念行事を通して、学校を好きになったり、行事の準備に自分から関わったりすることができましたか？	83.0	82.0	17.0	18.0
		82.5		17.5	
3	学習時間中、自分で考えたり、友だちと話し合って考えたりすることができた。	90.5	85.7	9.5	14.3
		88.1		11.9	
4	学習時間の最後の「ふり返し」を自分の言葉でまとめることができました。	80.6	79.5	19.4	20.5
		80.0		20.0	
5	学習時間を、自分たちで進められることができるようになった。	87.3	84.8	12.7	15.2
		86.0		14.0	
6	「自立」自ら学び、考え、行動する人を意識して生活できた。	83.0	80.9	17.0	19.1
		82.0		18.0	
7	「共生」思いやりをもち、共に生きる人を意識して生活できた。	91.0	89.5	9.0	10.5
		90.3		9.7	
8	「健康」しなやかで丈夫な、こころからだをもつ人を意識して生活できた。	89.0	87.9	11.0	12.1
		88.5		11.5	
9	「自学のすすめ」を活用して、自分で内容を決めたり、やり方を考えたりして、家庭学習ができた。	79.0	77.9	21.0	22.1
		78.5		21.5	
10	生活・総合的な学習の時間で、学習することを友達と話し合ったり、考えたりすることができた。	90.0	88.5	10.0	11.5
		89.3		10.7	
11	まなびの教室で学んだことが、自分のためになっている。（まなびの教室通級児童対象）	85.0	86.5	15.0	13.5
		85.8		14.2	
12	すすんで、当番活動や係活動、委員会やクラブ活動に参加することができた。	90.7	90.1	9.3	9.9
		90.4		9.6	
13	ゲストティーチャーと楽しく学習ができた。	91.7	92.8	8.3	7.2
		92.3		7.7	
14	縦割り班活動に参加し、上級生や下級生と楽しく遊ぶことができた。	87.2	81.1	12.8	18.9
		84.2		15.8	

○取組指標(質問1～5, 7, 9, 11, 12)から見えること

「学校（教員）の取組が適正になされているか」を問う取組指標の質問からは、今年度の学校の取組に対して厳しい評価をいただきました。ここは、同時に行っている教職員アンケートの結果と相反する（教職員は「しっかり取り組んでいる、できている」と回答しているが、保護者は「不十分である、できていない」と回答している）ところでした。

例えば、質問1「学校は、積極的に教育目標を達成するための教育活動を推進している」に対する回答は、全体の回答率の低下に伴い、昨年度比で-10.2ポイントとなりました。保護者の皆様が、どのような理由で回答されたのかが不明ですが、学校（教員）の意識と保護者の意識に大きなずれが生じ始めていることは看過できません。また、「判断できない」と回答された方も相当数いることから、学校の取組が保護者の皆様に正確に伝わっていないという恐れがあります。その原因の一つとして、昨年度より、通常の土曜学校公開が実質3分の1に減り、学校の様子を見ていただく機会が減ったことが考えられます。学校公開以外の情報発信の手段として、本校ではホームページの充実を図ること、特に「校長室動画通信」等、動画による情報発信、コクーによる一斉メールでの連絡、校長「語り合いサロン」の開催および動画配信などICTを活用した発信を頻繁に行っております。しかしながら、これらの情報伝達手段だけでは保護者の皆様に十分にお伝えすることができていないという現実を重く受け止め、来年度以降さらにわかりやすくお伝えする方法を考えてまいります。

質問7「学校は、子供が学校で成長した内容を伝えている」は、成果指標の質問8「面談やポートフォリオ等を通して、子供の成長した様子や課題が伝わった」と合わせて、肯定的回答が63.2、64.2と、否定的な回答の2倍以上評価をいただきました。今年度、通知表による総括的評価を廃止し、2回の面談でお伝えする方法に挑戦してみましたが、



多くのご家庭にご理解いただき、ありがたく思います。

通知表の件については、これまで子供たちの意見を聞く機会がありませんでしたので、1月30日に4年生以上の児童を対象にアンケートを行い、率直な意見を聞いてみました。その結果、65%の児童は通知表があったほうが良いと考えていることがわかりました。これは、見過ごすことのできない数値ですので、今後、総括的評価をどのように考えるか

は、子供たちの声も聴きながら検討していきたいと思えます。また、本年度始めたOPPシートによる自己評価は子供たちにも好評でした。OPPシートの活用を通して、まずは、「人と比べるのではなく、一人一人の良さを認め、伸ばす」形成的な評価を行い、その成果物をもとに、具体的に児童自身や保護者の皆様に、学習状況（できるようになったことや良いところ）や課題をお伝えできるよう、教職員一同努力してまいります。

○成果指標(質問6, 8, 10, 13)から見えること

「学校（教員）の取組によって、児童（家庭）にどのような変容が見られたか」を問う成果指標の質問からは、全体の回答率が下がったことと合わせて、学校が目指す方向性に対する保護者の皆様の不安の強さが読み取れます。質問6「自分の子供は、学習に向かう姿勢が主体的になってきている。(自ら進んで学習に取り組もうとしている。)」については、55%の保護者の方が否定的回答をしています。これは、質問10「自分の子供は、自学(家庭学習)に取り組んでいる」と、ほぼ同じ結果となりました。家庭学習については、児童アンケートでは78.5%の児童が家庭学習に取り組んでいると答えておりますが、多くの保護者が、家庭での様子から子供たちの学習に対する態度(学びに向かう力)を評価したものと思われます。これも、普段の学習時間の様子を保護者の皆様にご覧いただく機会がなかったことが影響しているものと思われます。なぜなら、学級、学年により多少の差はございますが、子供たちの学習にむかう姿勢は、年々確実に向上しています。数年前までの、受け身な姿勢から、よりアクティブ(能動的)に学習をするようになってきました。

また、質問13「(学校の情報発信)の取組により、学校の取組や様子を把握できている」でも肯定的回答が下がっていますが、学校からの連絡の入り口に当たるCOCOOによる一斉連絡メールの開封率が50~70%という状況で、学校からの連絡そのものが保護者に届いていない状況があります。今回、学校評価保護者アンケートのお願いについては、第1報が58.6%、再送が66.4%、最終のお願いが67.4%の開封率でした。第1報で未開封のご家庭には、個別に手紙でご協力をお願いしました。ご家庭によっては、メールそのものが選別されるなどして、実際に届いていない可能性もあります。学校からのメールは、ほぼ毎日送信されておりますので、もし最近メールがまったく届いていないというご家庭がありましたら、契約している通信会社にお問い合わせください。

○自由意見から

今年度も、たくさんの自由意見をお寄せいただきありがとうございました。今年度の主な自由意見は、大きく分類すると四つに分けることができました。

1 学級の様子に関するご意見

学級の様子を心配する声を複数のご家庭からお寄せいただきました。学級が落ち着かず、指導が行き届いていない状

況への懸念や不安を読み取ることができました。現状については、学校でもよく把握しており、改善に向けて対応中ではございます。ご心配をおかけして申し訳ございません。お子さんの学級のことで心配なことがございましたら、いつでもご相談ください。また、学校に来て一緒に見守りいただける時間がございましたら、ご協力いただければ幸いです。

2 学校からの情報発信について

コクーのメールで「ホームページに学校便りをアップロードしました」と連絡が入るのに、ホームページにはまだ掲載されていなかったことが何度かあったというご意見を頂戴しました。ホームページがアップロードされるタイミング(15分に1回)と一斉メールの配信されるタイミングがずれてしまったことが原因です。これは学校側の作業ミスの問題ですので、保護者の皆様にはご迷惑をおかけして大変申し訳ございませんでした。以後、そのようなことがないように努めてまいります。万が一、タイミングがずれた場合には、少し時間を空けて再度アクセスしていただきますよう、よろしくお願いいたします。

3 通知表・面談について

「取組指標から見えること」にも書いた通り、今年度から通知表による総括的評価を廃止したことについてのご意見をいただきました。あわせて、通知表の代わりに実施した面談が、お子さんの成長を伝えるのには短すぎて不十分だったというご意見も複数いただきました。今月末にも面談の予定がございいますが、来年度はご意見を受け、面談の時間を延長する予定です。また、面談でお伝えする内容が、学級によって大きな差の出ないよう、学校全体で基本事項の統一を行うように改善してまいります。

このたび、1月30日に4年生以上の児童に採ったアンケートの結果、65%の児童が「通知表はあったほうがよい」と回答しました。理由も併せて尋ねたところ、「自分の実力を知りたい」というポジティブな意見もありましたが、中には、「これまで通知表の成績でお小遣いをもらっていたのにそれがもらえなくなった」という声もありました。担任たちも、よく子供たちが学校の成績等(テストや通知表、そして校長室暗唱チャレンジの課題まで!)で、お小遣いやご褒美をもらっているという話を耳にしています。ご褒美のために「自主的に」頑張ることもありますが、今、私たちが目指しているのは、児童が「主体的に」学習に取り組むようになることです。通知表がこのような使われ方をしているところにも、「通知表」の意義および現在の日本の大きな問題点があるわけです。

通知表(評価の仕方)の問題は、子供たちが将来幸せな人生を自ら獲得することができるようになるかに大きな影響を与えるものと考えております。保護者の皆様はいかがでしょうか。ご自身の職務をA,B,Cのように評価されたとき、自分の働きが正当に評価されているのか疑問に思ったことはございませんか。私たちも教育委員会から毎年評価を受け取りますが、たいていの場合、評価を見てやる気がなくなることのほうが多いものです。

子供たちの良さを見取り、評価する形成的評価を重視することにより、子供たちには、人と比べるのではなく、自分の良さに気づき、伸ばそうとする態度を身に付けてほしいと願っております。まだ、学校の力も不十分な点が多々ありますが、教職員一同、日々研鑽に努めてまいります。この趣旨については、子供たちにもわかりやすく伝え、どうしていくのが良いかを話し合っていきたいと思っております。

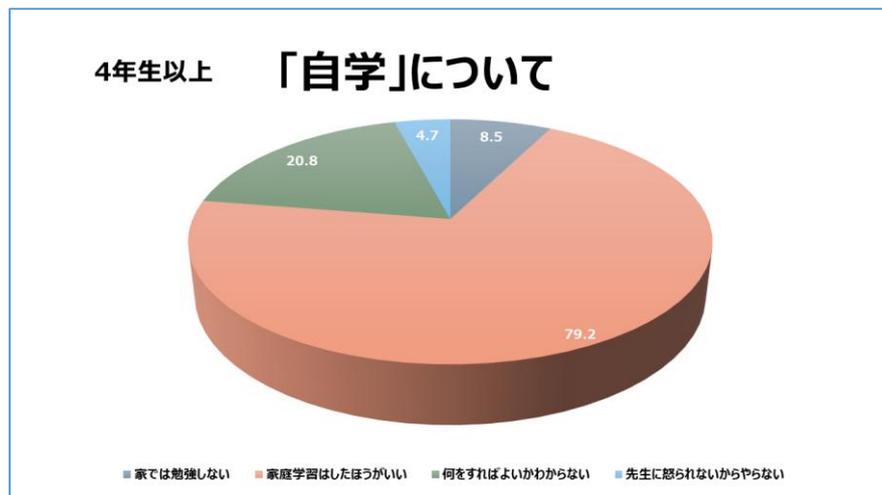


4 「宿題」について

自由意見として寄せられた中で圧倒的に多かったのが、今年も「宿題」についてでした。第三吾孺小学校では、昨年度より、「一律の宿題」を廃止しております。このことについて、昨年度同様、主に低学年の保護者の皆様から、不安の声が多数寄せられました。

今年度については、昨年度寄せられたご意見に基づき、発達段階に応じた家庭学習の課題を各学級で出してまいりま

した。1, 2年生には、具体的に何をすればよいのか(やるべき課題)、どんな風に進めればよいのか(課題のやり方)を伝え取り組ませました。3, 4年生は、家庭学習の計画の立て方を、具体的に週ごとの学習予定とともに伝え、学習のやり方についての指導をしてまいりました。そして、5, 6年生には、自分で計画したり、課題を見つけたりすることができるように、アドバイスを行ってまいりました。これらは主に、子供たちに貸与されているタブレット端末を使って連絡をしております。この方法が、保護者の方にはわかりづらかった様子がご意見からうかがえました。家庭学習に対する指導が、十分でなかったことは申し訳なく思っておりますが、[昨年度の学校便り・臨時号](#)でもお伝えした通り、「一律の宿題の廃止」は、現在進めている「主体性の育成」のための最も重要な考え方に基づくものです。



前述のとおり、児童アンケートでは、全校児童の78.5%が自学に取り組んでいると回答しています。そこで、改めて実際子供たちはどう思っているのかを確かめるため、1月30日に「自学」について4年生以上の児童に聞いてみました。「家では勉強しない」と答えた児童は8.5%、「先生に怒られないからやらない」と答えた児童が4.7%でした。「家庭学習をすべき」と考えているのは80%の児童で、21%の児童が「やったほうが

いいが、何をしたらよいかわからない(からやらない)」と回答しています。教員からは課題を示しているにもかかわらず、何をしたらよいかわからないと思っている(言い訳をしている?)児童が21%もいるということがわかり、今後の家庭学習指導について、再考すべき点であると考えております。

余談ではありますが、私の尊敬する精神科医の[本田秀夫先生](#)は、一律の宿題が子供にとってプラスにならないことを広く知らしめるため、川柳を作ってその著書やマスコミのインタビューなどで「ぜひ広めてほしい」と語っています。

「宿題は 百害あって 一利なし」 本田秀夫

◎ 来年度へ向けて

自由意見の中に、「主体性」ではなく「自主性」という言葉が多く見られました。多く、というより、意見を寄せられたほとんどの方が「自主性」と書かれていました。それを見て、今学校が目指していることをご理解いただくことの難しさを、改めて痛感いたしました。

これまで本校で進めてきた改革のテーマは「主体性」であり、「自主性」とはまったく異なる — 正反対くらいに異なる — ものです。これは、学校関係者の間でもよくある誤解で、国が進めようとしているのは子供たちの「主体的な」態度の方です。先日、本校の研究発表会には日本全国から258名もの参加者がありましたが、皆その部分がネックになっているようでした。参加者の方から「(第三吾孺小学校の研究は)中途半端なものではなく、誰がどう見ても主体性を重んじていると一目でわかる実践と研究発表だった。」との感想をお寄せいただきました。特に、4年生以上の有志実行委員が行った研究発表第1部の様子は、参加された誰もが感心していました。第1部終了後の子供たちは達成感に満ちあふれた顔をしておりましたが、これこそが、私たちが日々行ってきた教育活動の確かな成果に他なりません。この改革はまだ道半ばではありますが、子供たちの幸せのため、これからも努力を重ねていく所存です。これからも、本校の教育活動にご理解・ご協力をよろしく願いいたします。